

目次

1. 2025 年度検定試験結果速報

2. 土壤医活躍中!

千葉県佐倉市農家 鈴木直政さん

3. 事業体土壤医の会紹介

土の匠土壤医の会

(関東電工株式会社、いなほ化工株式会社)

4. 事務局からお知らせ

- ・農林水産省「土づくり専門家リスト」について
- ・土壤医の会正会員に対する本年度会費納入の依頼について
- ・土壤医の会等の活動に対する助成事業の募集について

1. 2025年度「土壤医検定」試験結果速報!

2025年度の土壤医検定試験の合格発表が3月25日にありました。

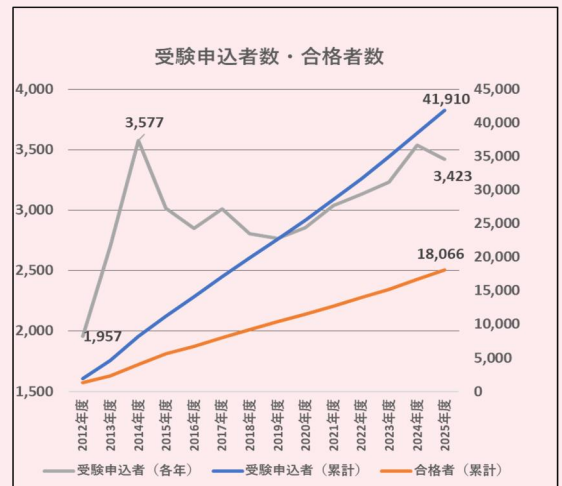
合格された皆さん、おめでとうございます!

■ 申込者数

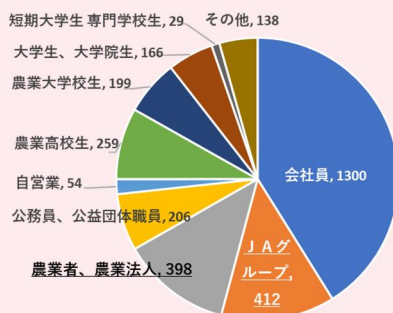
25年度の試験申込者総数は3,423人と近年で最も受験者の多かった昨年度と比べ116人減となりましたが、過去5か年の平均受験者数3,160人と比べると依然として高い水準を保っています。

職業別では昨年度大きく増加した「JAグループ」「農業者・農業法人」からの受験申込者数はそれぞれ595人と535人で、過去5か年の平均受験者数412名人と398人との比較では引き続き増加傾向を維持しています。一方で、大学や農業大学校、農業高校や専門学校等の学生を合計した申込者数は、過去5か年平均が653人であるのに対し、

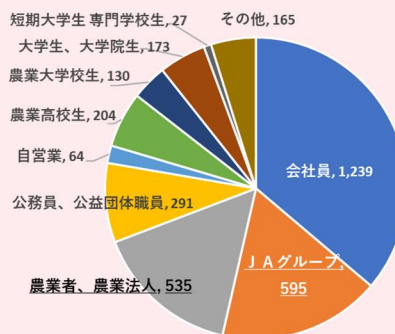
25年度は534人と学生の退潮傾向が継続しましたが、都立園芸高校が初めて団体受験するなどの動きもありました。



受験申込者数の職業別割合



2020～24年度5か年平均



2025年度

■試験会場

鹿児島県に新たに「鹿児島会場」がオープン会場として開設されました。南九州エリア初のオープン会場ということで一年目ながら60名近くの受験者が集まりました。一般の受験者が受験可能なオープン会場は全国 26 会場、その他にJAや農業高校、農業大学校などが、自らの所属する職員や生徒専用開設するクローズ型の会場が20会場と、計46会場となり、受験しやすくなりました。

■合格率

1級の合格者は 27 名(合格率27.3 %、同前年 31.5 %)、2級の合格者は 383 名(合格率 32.5%、同前年 35.9%)、3級の合格者は 967 名(合格率 56.8%、同前年54.7%)で、合格率は例年と同程度となりました。

来年度(2026年度)の試験日程のご案内

9~11月 研修会申し込み受付
11~12月 研修会実施

10月27日(火)~12月7日(月) 検定願書受付
2月14日(日) 試験実施

降雪への配慮から昨年度より1週間遅く試験を実施します。
合格発表は年度内に行います。

3月25日(水)1~3級合格発表

2. 土壌医活躍中！ ～千葉県佐倉市の農家 鈴木直政さん～

■農業も機械いじりもベテラン

千葉県の北総地区、50年以上農業を営んでいます。

現在は、ヤマトイモ50a、水稻150aを耕作しながら、メーカーでは修理のできない電装品の修理、再生をおこなっています。自分で使う農機具等もほとんど直し、必要に応じて自作します。これまで、実用新案2件、やまといも技術の特許2件を取得してあります。

■“鈴木式”土壌硬度計で実用新案を取得 2025年9月

この器具は、土壌の硬さを目盛りや数値で測る器具ではなく、根菜類等の土の硬さの影響を受けやすい作物が栽培可能か否かを簡易に判断するために作りました。

使い方は、これから作る作物が常によくできる所に必要とする深度まで差し込み、甲高い音が鳴る少し手前を基準として”可変レバー”を固定し、作付け予定の所へ差し込んでみると、簡単に硬さが比べられます、設定した硬さを超えれば甲高い“悲鳴”になります、ちなみに音響は、好みで変えることも出来、光でもできます。

この器具は、簡単に作った実証用のプロトタイプでした、更に良い物を目指す予定で、撮影後解体しました。



開発した土壌硬度計を使う鈴木さん

■ 弁理士の質問に答えられず土壤医を目指す



土壤医検定を受験したきっかけは、思いがけないことでした。

それは、やまといも栽培技術を、次世代へ残そうと弁理士の先生に相談したところ、出願書類作成のため、たくさんの質問がきましたが、満足に答えられないのです。

例えば、「芋への糖の転流にカリウムはどう関わっていますか？、NDVI画像は、撮影した時刻でどのように変わるか？、晴天と曇りではどうか？、種芋で植える作物と、苗、種では、施肥がちがうのか？等々」

いざ聞かれると何も答えられない。この体験は、凄く衝撃でした。少しばかりの、薄い中身の無い専門用語を並べただけで、「知っているつもりで

知らない」己を気付かされました。

その頃は、JGAP 認証農場でしたので、時折点検していた、農場用管理点と適合基準のなかにあった”土壤医検定”の勉強を始め、2018年2級、翌年1級に合格、同時期に施肥技術マイスターも取得できました。

■ 自ら学んだ土壤の知識は必ず役に立つ

土壤医検定の学習と併せ、施肥技術を学ぶことにより、土壤分析結果から、自分で判断できるようになります。例えば、いままで”習慣や人まね”で施用していた、石灰の量も根拠を持って決定できるようになり、施肥についても同様に“施肥設計”という用語ではなく、自分で処方箋を作れるようになります。

■ 土壤医としてのこれから

やまといも栽培技術に関する特許は、まだ未完成で”生煮え”の状態です、これから弁理士の先生と相談しながら完成型に仕上げ、農を生業として生きてきた”証”として遺したい。

数年前から大学と共同で行っている、バイオ炭とドローンでの圃場の画像解析や、個人的に継続しているバイオ炭の試験をさらに展開して行くつもりです。

若い学生さんや外国からの研究者の手伝いをすると若返った気分になります。

ライフスタイルのようになって、北総地区を気ままに”俳諧”して、邪魔にならないように作物や田畑の土を観ながら、いろいろな話を聞かせてもらいます、時々その人たちが堰を切ったように経験をはなしてくれます、たぶん自分と同じ匂いを感じるのでしょうか？。知恵袋、百科事典、図書館、のようです。

今年、新しい、10年卓上日誌を使いはじめました、10年後はこの世にいないと思います。

その日まで、ひと様の邪魔にならないように老害と言われないように「畔道にいる土壤医」を自認して過ごして行きます。



「古き墳はすかれて田となりぬ」 徒然草第30段

鈴木さんにご寄稿いただきました。ありがとうございます！
鈴木さんは、両総土壤医の会と首都圏土壤医の会の両会に所属されています。

3. 事業体土壤医の会紹介 ～土の匠土壤医の会さん～

■ 関東電工株式会社&いなほ化工株式会社の紹介

「土の匠」土壤医の会は、お取引様とともに、生産者様の施肥や土づくりにお役に立てるよう、

富山県高岡市に本社と工場を置き、秋田県、岩手県にも工場を持つ

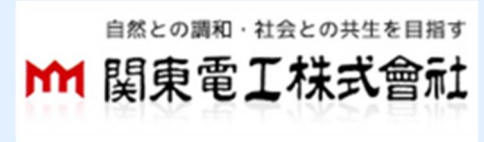
「いなほ化工株式会社」<https://www.ihk.jp/> と

群馬県に本社と工場のある

「関東電工株式会社」<https://kantodenko.co.jp/> の

両社の営業・品質管理の担当者を会員とし、

当時両社の社長だった花田修一の命名で2016年8月に設立されました。



いなほ化工社製品



関東電工社製品

両社とも設立から50年以上の長い歴史を持っており、いなほ化工株式会社は、育苗培土や土壤改良資材を関東電工株式会社は、化成肥料や配合肥料をそれぞれ生産し、全国のお客様へ販売させていただいております。2社が協力して業務を行うことで、育苗から土づくり、元肥、追肥までの製品をお届けできる体制を整えております。

土壤医の会の立ち上げに先立って、土壤医検定試験開始の年から営業・品質管理担当者の知識向上を図るため、土壤医資格の取得を会社が積極的に支援し進めており、現在は土壤医 1 名を始め2級6名、3 級6名の有資格者 13 名と技術顧問を中心に対面とオンラインで、毎月 2 回の勉強会を行っております。

活動内容は、技術顧問が講師になり、土壤肥料や施肥の知識の習得、各営業担当者が全国各地域の作物で行っている肥料試験の共有、お取引様の土壤医の会と共同での勉強会開催や、お取引先のご担当者様も参加いただき現地圃場

での物理性診断の実習などを行っております。

また、土づくりにお悩みのお客様に対して、そのアドバイスができるよう、担当者の技術力の向上を目指して、土壤の化学性分析や物理性の調査から適切な処方箋の作成などの実習を行っております。



勉強会の開催



物理性診断の実習風景



今後の目標としては、今まで会員限定であった勉強会を地域のお取引様を中心に公開し、ともに土づくりや施肥改善を行っていけるように土壤医の会の活動を充実させていきたいと考えています。

土の匠土壤医の会さんにご寄稿いただきました。ありがとうございました！

4. 事務局からお知らせ

■農林水産省「土づくり専門家リスト」について

農林水産省では、意欲ある農業者が土壤診断に基づく土づくりの相談等を受けられる環境を整備するため、下記のURLにて「土づくり専門家リスト」を公開しています。

https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/tuti_list.html

(一財)日本土壤協会では、土壤医検定 1 級資格登録者(土壤医)を土づくり専門家として上記リストに推薦することとしており、リストに掲載を希望される方の情報を農林水産省に連絡しております。

25 年度試験に合格し、新たに土壤医として登録された方や、既に土壤医の登録をお持ちの方で、掲載を希望される方は、「農水省・土づくり専門家リスト」に掲載を希望する旨、下記メール宛先にご連絡下さい。

連絡先: e-mail@soil-doctor.net その際、上記に公開されている「土づくり専門家リスト」を参考に居住地、所属、氏名、連絡先、対応地域、対応作物名、対応分野(土壤分析、施肥設計、病害虫対策) その他のリスト記載項目についての明記をお願いします。

既にリストに掲載されている土壤医の方で、記載内容に変更が生じた場合も、その旨を上記宛先にご連絡ください。

■土壤医の会正会員へ本年度年会費納入の依頼について

大部分の地域土壤医の会の正会員 および 土壤医の会全国協議会へ直接入会される正会員の皆様

上記の正会員については正会員年会費を個人単位で納入していただきます。未納の方は、納入をお願いいたします。

正会員年会費の納入方法の詳細は、<https://soil-doctor.net/kaihi> を参照ください。

一括で年会費納入を行う一部の地域土壤医の会の正会員 および 事業体土壤医の会に所属する正会員は、所属する土壤医の会より一括納入のため、個人単位での土壤医の会全国協議会宛て納入は不要です。

また、複数の土壤医の会に重複所属していても、年会費は重複して納める必要はありませんので、念のため申し添えます。

■土壤医の会土壤医の会等の活動に対する助成事業の募集について

土壤医の会全国協議会では、地域土壤医の会及び事業体土壤医の会および全国協議会正会員が実施する土づくり講習や土づくり関する相談会、土壤医検定講習の開催など、土づくりおよび土づくりの普及に関わる会員外への働きかけを支援することを目的に、助成事業を実施しています。

実施要綱 https://japan-soil.net/sdn/grant/jyo1_yk.pdf 参照。

本年度も助成事業を4月1日より募集しています。該当する取り組みがあれば、助成申請をお願いします。

事業内容によっては、地域土壤医の会の活動にのみ助成される案件があるので要件を確認ください。

詳しくは、実施要綱に基づく実施要領 https://japan-soil.net/sdn/grant/jyo2_yr.pdf 参照

助成申請の書式は、土壤医ネットワークにある土壤医の会全国協議会 web サイトからダウンロードするか、

e-mail@soil-doctor.net までお問合せください。

編集後記

2024年4月発行の16号から「土壌医通信」の編集に携わっていた、日本農業新聞元記者で大学院博士課程在籍中の丸山さんが博士課程最終年度を迎え、21号を最後に編集を離れました。さすがの執筆力と構成力で読みやすい紙面を作成いただいたことを本当に感謝しております。彼女の今後の活躍をお祈りするとともに、彼女の編集してくれた号を参考にしつつ、よりよい紙面となるよう心がけます。ご感想、ご寄稿等をお待ちしております。 e-mail@soil-doctor.net までお寄せ下さい。(直川)